

第1学年音楽科学習指導案

指導者(所属)【所属には〇〇領域専攻などを書く】 〇〇〇〇
(指導担当教員 〇〇〇〇)

1. 日時 〇〇年〇月〇日(〇曜) 第〇校時(〇〇:〇〇~〇〇:〇〇)

2. 学年・組 第1学年〇組 計〇名

3. 場所 音楽室

4. 指導内容 箏の音色

[共通事項]音色

[指導事項]鑑賞ア(ア)曲や演奏に対する評価とその根拠

鑑賞イ(ウ)我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、
その特徴から生まれる音楽の多様性

5. 単元名(または、題材名) 箏の音色を意識して《六段の調》を鑑賞しよう

6. 教材 《六段の調》八橋検校 作曲

7. 単元(または、題材)の目標

- ・箏の音色や奏法について理解する。(知識及び技能)
- ・箏の音色や奏法を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・箏の音色や奏法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

8. 単元(または、題材)について

(1)教材観

《六段の調》は八橋検校によって作曲された、段物と呼ばれる箏曲の一つである。全体で六段(6つの部分)からなっており、序破急の形式で演奏される。初段から六段まで、速度や音色、リズムなど、変化に富んだ楽曲であるため、音楽の要素の知覚をおこないやすい。また、箏の音色や余韻の変化など、箏の特徴を充分に感じ取ることができる教材である。初段のゆったりとした部分では、音色の変化をしっかりと味わうことができる。初段以降は、速さやリズムなどの変化だけでなく、箏の様々な奏法が使われており、音色の変化が豊かで、箏の独奏でありながら音楽表現の多様性を感じ取ることが出来る。それぞれの段は、初段の冒頭4拍を除いてすべて同じ拍数となっている。

第1時で取り扱う初段は、ゆったりとしたテンポで始まる。冒頭の12拍(テーエントンシャン シャシャコーロリチイトン コーロリシャン)では、引き色と後押しが使われており、一音一音の響きをじっくり聞くことができるため、その奏法による余韻の変化をはっきりと知覚することができる。

第2時では、特に三段と五段を取り扱うが、それぞれの速度の変化が明確である。三段の冒頭では裏連が使われており、大変華やかな出だしとなっている。初段よりも速くなっているが、引き色や後押しはまだ多く存在し、その余韻の変化を感じ取ることにはできる。五段は、さらに早くなり、余韻の変化はあるものの、初段や三段に比べて引き色や後押しの回数は減り、また聞き取りにくくなっている。その分、合わせ爪などの新しい奏法が増え、後半は音色の変化だけでなくリズムや様々な奏法による音楽の変化を楽しむことができる楽曲である。

(2) 生徒観

本校では、附属小学校から進学した生徒がおおよそ半数いる。附属小学校では、箏の演奏に力を入れており、箏に対してある程度の知識や親しみをもつことができている。その反面、出身小学校によって箏の経験を全く持たない生徒が半数近くですることも事実である。両者がともに学ぶ環境にあるため、経験のないものには箏に関する知識の手ほどきをしつつ、また経験のあるものにはその知識を生かせる場を設定することが意欲につながると考えられる。

生徒たちはこれまで、鑑賞教材としてはヴィヴァルディ作曲《四季》より〈春〉、シューベルト作曲《魔王》を鑑賞している。どちらも詩がついており、イメージしやすい教材ではあったが、それ以上に細かな情景を音楽から読み取ることができ、想像力が大変豊かな生徒が多い。その反面、音楽の特徴を説明する際、音楽の要素の使い方や説明の仕方など表現の幅はまだ狭い。そのため、こちらで発問返しをしていくことで修正を必要とする生徒もいる。生徒の実態としては次のA～Dがあげられる。

A: 音楽を聴いてのイメージおよび音楽の特徴の気づき共に豊かである。

B: 音楽を聴いてのイメージは豊富であるが、音楽の特徴の気づきは抽象的なものが多く、表現に乏しい。

また、音楽の特徴は気付いているが、音楽の要素を正しく使えなかったり、擬音語ばかりで説明を進めてしまう。

C: 音楽の特徴ばかり気づくが、音楽を聴いてのイメージは乏しい。

「おだやか」「悲しそう」など雰囲気は話すことができるが、具体的なイメージをもって話すことが難しい。

D: 音楽の特徴イメージともに、抽象的な単語のみでしか説明できない。

いずれにしても、1年生は音楽に関する知識および表現の幅が狭いことが、根本に考えられる。音楽用語を正しく使用して説明することも必要な学びであるが、彼らの素直な表現や感受性を大切にしつつ、表現の幅を広げていく手ほどきが重要となる。

(3) 指導観

第1時は、主に冒頭の12拍(テーエントンシヤン シャシャコーロリチイトン コーロリシヤン)を取り上げ、余韻の変化やその効果について気付かせることをねらいとする。この部分の旋律の動きは、音源に合わせて口唱歌させ、理解させる。次に、余韻が変化した2つの箇所を確認し、変化の仕方と奏法について学ばせる。その後、教師の演奏により、「引き色」や“後押し”の奏法を抜いた演奏とそれらの加えた演奏を比較聴取し、感じ取ったことを全体で交流する。そして再度初段を聴き、余韻の変化がもたらす効果を考える。

第2時では主に三段と五段の比較聴取をおこない、また初段と比べてどのように余韻や音楽表現が変化しているかを考えさせる。そしてまとめとして、箏の音色を意識して全曲を鑑賞し、速度の変化と余韻の関わりについての批評文を書かせる。

9. 単元（または、題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・箏の音色や奏法について理解している。	・箏の音色や奏法を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・箏の音色や奏法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

10. 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
第一	1	《六段の調》の初段を聴き、箏の音色や奏法について知覚・感受する。	①箏の音色や奏法について理解している。(テスト・ワークシート) ②箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える(ワークシート)

第二次	2 箏の音色を意識して《六段の調》を鑑賞する。	①箏の音色に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(観察・ワークシート) ②箏の音色を意識して鑑賞し、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(ワークシート)
-----	-------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 1. 本時の学習

(1) 本時の目標

《六段の調》の初段を聴き、箏の音色や奏法について知覚・感受する。

(2) 本時について

①教材観

本時では初段を扱う。初段は全体的にゆったりとした速度で演奏されているため、また単音で演奏される部分が多いため、音色や余韻の変化を非常に知覚しやすい段である。特に冒頭の12拍(テーエントンシャン シャシャコーロリチイトン コーロリシャン)では、後押しと引き色の奏法が一回ずつ使われている。引き色は、冒頭の(テーエン)で使われており、弦をはじいた後に左手で柱の方向に糸を緩めることで、音高がわずかに下がる。後押しは、8拍目の(チイ)で使われており、弦をはじいた後、左手で柱の左側の糸を押すことにより、音高が高くなる。どれも理科の授業で学習する音の高低の単元と共通しているため、原理を理解すれば、大変わかりやすい奏法である。

初段全体の演奏に関してはDVD およびCD を取り扱うが、冒頭の12拍に関しては、実際の演奏も取り入れ、鑑賞させる。箏の音色の響きを直接聴き取ることは、録音した音源よりも箏の奏法による音色の変化および効果を、はっきりと肌で感じ取ることができるであろう。

②生徒観

本学級の生徒は、新しい音楽との出会いを大変楽しみにしており、積極的に音楽に関わろうとする生徒が多い。楽曲を聴いたとき、真っ先にイメージが出てくるなど、音楽に対する反応が大きく表れる傾向がある。生徒の実態としては、「B: 音楽を聴いてのイメージは豊富であるが、音楽の特徴の気づきは抽象的なものが多く、表現に乏しい。また、音楽の特徴は気付いているが、音楽の要素を正しく使えなかったり、擬音語ばかりで説明を進めてしまう」生徒が非常に多いクラスである。感想を述べる視点や音楽に対する反応はとても良いので、その部分を受け止めつつ、さらに具体的に説明させたり、発問返しをしていくことで、表現の幅を増やしていくことが必要である。

また、積極的に取り組む一方で、一部の生徒が突出して意見を述べることが多い。ワークシートを見ていると、しっかりとじっくり考えて答えを出し、表現豊かに記述している生徒もいるため、彼らの意見も授業の中で生かせるように授業進行を配慮していく必要がある。

③指導観

最初に、《六段の調》初段を途中まで聴かせ、感じたことを発表する。楽曲に対するイメージや、日本音楽に対する評価などさまざまなものが出てくると予想されるが、自由に発言させるようにする。そして今度は音色に注目して初段を途中まで聴かせ、感想を述べさせ、本時の展開につなげる。

展開では、まず《六段の調》の冒頭12拍目までを口唱歌し、その旋律の動きを理解させる。ワークシートには、旋律の動きや音高を曲線で示し、そこに口唱歌の言葉を記すことでわかりやすく工夫する。旋律の動きを理解できれば、歌わずに再度12拍を聴き、余韻が変化した口唱歌の言葉にマル○をつける。余韻については、箏を実際に演奏しながら説明し、理解できるようにする。変化した場所について、どのような変化があったかを確認し、合わせて奏法の説明をする。理科の音の高低の単元と結びつけ、また箏も実際に何度も演奏しながら説明することで、箏の音色に接する経験を増やす。その中で感じ取った、引き色と後押しの音色の変化のイメージを共有する。ここまでは主にパワーポイントを使って授業を進める。

次に、引き色や後押しの奏法を抜いた演奏とそれらの加えた演奏を比較聴取し、箏の奏法による音色がもたらす表現の効果について感受させる。これも教師が実際に演奏して考えさせる。最初に奏法を抜いたものを演奏し、その後続けて奏法ありを演奏する。交互に何度も演奏し、その間にワークシートに感じ取ったことを

記入させる。その後、比較聴取して感じ取ったことを全体で交流し、出てきた意見を板書する。そしてまとめとして、奏法による余韻の変化がもたらす効果を意識して《初段》全曲を聴かせる。


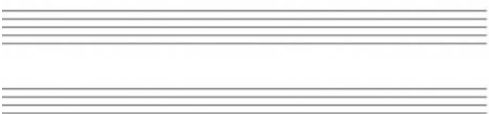
(3) 本時の展開

○主なる指示・発問

区分	学習活動と内容【主語は学習者】 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援【主語は教師】 (教師の活動)	評価方法
【導入】 5分	【以下は展開の例です】		
【展開】 40分	<div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 5px; text-align: center;"> 箏の音色の変化を味わおう </div> <p>2、《六段の調》の主旋律を口唱歌する。 ○口唱歌について知り、12拍目までをゆっくり練習する。 ○音源に合わせて口唱歌をする。 ○再度初段を聴き、余韻が変化した言葉にマル○をつける。 ○変化した場所を楽譜に書きこみ、全体で交流する。 ○どのような変化があったか、再度音源を聴いて確認をする。 「一つ目は余韻が下がっていたけれど、二つ目は上がった」</p> <p>3、箏のいろいろな奏法による音色の違いを知覚・感受する。 ○“引き色”と“後押し”の奏法名と実際の演奏の仕方を知り、感じたことを交流する。 「引き色は、暗くなるかんじがする」 「後押しの方が変化がはっきりしている」 「後押しはグニュッと音がゆがむ感じで、色っぽい」</p> <p>4、箏の奏法による音色がもたらす表現の効果について感受する。 ○“引き色”や“後押し”の奏法を抜いた演奏とそれらの加えた演奏を比較聴取する。 ○比較聴取して感じ取ったことを全体で交流する。 「奏法がある方が、音の伸びが長く感じた」 「奏法がないと、まっすぐな音ですっきりしていたけれど、物足りない感じもする」 「奏法があると、次の音になめらかに続いている感じがする。」</p> <p>5、奏法による余韻の変化がもたらす効果を意識して再度《初段》を聴く。</p>	<p>・主に音色の変化(弦ではじいた後の変化)に着目させる。一度、弦をはじいた一音の響きを知覚させる。</p> <p>・ワークシートを配り、読み方を確認しながらゆっくり口唱歌させる。 1、2回目…そのまま読む。 3回目…音源に合わせて歌う。 4回目…指でなぞりながら歌う。 ・変化した場所は、ホワイトボードに映したパワーポイントで確認させる。</p> <p>・引き色と後押しを実演し、余韻の変化と奏法、奏法名を理解させる。理科と結びつけながら解説する。 ・基本は“引き色”と“後押し”を学習するが、“突き色”など他の奏法が出れば簡単に確認する。</p> <p>・12小節までを、奏法の違いを明らかにして実演で聴かせる。 ・奏法がない場合を先に演奏し、続けてある場合を演奏する。交互に何度か演奏する。</p> <p>・映像で見せる。 ・左手を観察して見ることが、奏法を理解するヒントになることを伝える。</p>	<p>【A:ワークシートに、感じ取った雰囲気について具体的に書かれていたり、そう感じた理由について、音楽の要素を使って表現豊かに記述している】</p> <p>【C:「どのように」や「なぜ」など、記入したことに対して発問をし、書き加えることを促す】</p>

【まとめ】 5分	6、感じ取ったことや新たに発見したことを交流する。	・時間があれば再度鑑賞するが、音源のみで聴かせる。	
-------------	---------------------------	---------------------------	--

④板書計画

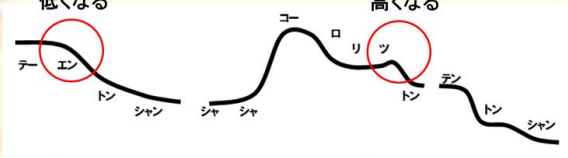
	《六段の調》 奏法あるとき		奏法ないとき
			

⑤資料等 パワーポイント

1、箏の旋律を口唱歌しよう





音色がどのように変化したかな？



音色が変化した部分の奏法について



3、奏法のまとめ

奏法名	演奏の仕方	余韻の変化
引き色	爪ではじいたあと、弦を柱の方向に引き戻して、弦をゆるめる	音の高さがわずかに低くなる 
後押し	爪ではじいたあと、左手で弦を押さえる	音の高さが高くなる 

⑥準備物 箏 ワークシート DVD CD